

令和5年度 前期 学校評価 結果と分析

気仙沼高校 全日制

1 実施日および回収率

- 生徒調査 : 7月21日～27日 回答数601人/全生徒数625人 (回収率96.2%)
- 保護者調査 : 7月21日～27日 回答数483人/全世帯数599人 (回収率80.6%)
[保護者調査回答数内訳 Classi 404人 マークシート79人]
- 教職員調査 : 7月21日～27日 回答数 52人/全職員数 52人 (回収率100.0%)
*保護者の分母は兄弟姉妹の重複を考慮し、世帯数とした。

2 アンケートの概要

本校の教育全般にわたる教育計画および教育活動にかかる点検・評価を行うために、学校評価委員会(7月6日(水))の審議を経て、令和5年度前期学校評価を実施した。

3 分析

(1) 分析の方針

グラフは今回の学校評価と前年度の学校評価とを比較できるように並べて作成した。また、各評価項目において「そう思う」と「大体そう思う」をあわせた割合の高いものを3項目、および低いものを3項目、それぞれ「○肯定的評価の高い項目」、「●肯定的評価の低い項目」としてまとめた。

(2) 分析と考察

①生徒

○「6 部活動は活発に行われている」97.3%

昨年度と同様に高い割合を占めている。運動部においては、フェンシング部のインターハイでの活躍、陸上競技部の東北大会出場などの顕著な成果が見られた他、文化部においても美術部・文芸部の全国高等学校総合文化祭出場、文芸部の二つの短歌甲子園出場や、マンドリン部の全国ギターマンドリン音楽コンクール出場をはじめ、調理部の県弁当コンテストでの第1位、吹奏楽部、ダンス部、演劇部の単独公演など、多くの部活動の活動が活発であることが要因であると考えられる。

○「8 有意義な学校行事がある」97.3%

昨年度と同様に高い割合を占めている。球技大会、気高祭、運動祭といった気高三大行事を、生徒主体で企画・運営し、充実した行事にしている結果であると言える。

○「1 スクールポリシーに基づく教育課程の編成・実施」96.1%

昨年度からのスクールポリシーの策定を受けて、今年度から県の共通質問項目に指定された質問であるが、高評価の割合が高い。学校設定科目の地域社会研究や課題研究をはじめとして特色ある教育課程を展開していることが評価されたと推察する。

●「19 課題研究活動を通して、身近なものに疑問を持つようになった」65.5%

昨年に引き続き肯定的評価が最も低い。内1学年が66.2%、2学年が59.7%、3学年が70.6%と学年ごとのばらつきが大きくなっている。引き続き探究活動のさらなる活性化を目指して地域社会研究や課題研究の充実を図っている最中であり、継続した取組を続けたい。

●「14 授業以外に学習時間を確保している」73.3%

例年と同じく高評価が低い傾向であり、3学年86.9%に比して1学年(68.9%)、2学年(64.3%)が低い。現在、2期考査が終了し、1・2学年において学習への取組姿勢の見直しを意識させ、状況の改善を図っている最中である。あわせて面談や通信を通じてスマホの使い方も含めた生活サイクルの自己管理を促進させるとともに、予習・授業・復習の学習サイクルの進め方の徹底などの対策を講じていきたい。

●「7 生徒会活動は活発に行われている」79.8%

生徒会活動もコロナ禍前と同様の形にもどりつつあるが、生徒会への帰属意識の低下が伺える。生徒会活動は各種委員会の活動も含んでいることも考えてもらうと割合の向上が期待できる。

②保護者

○「8 有意義な学校行事がある」95.0%

○「1 スクールポリシーに基づく教育課程の編成・実施」94.8%

○「14 お子さんは充実した学校生活を送っている」93.6%

肯定的評価の上位3項目は以上であるが、生徒が積極的に学校生活に取り組んでいる結果であると考えられる。質問1については生徒と同様で高評価であった。

●「19 課題研究を通して身近なものに疑問を持つようになった」56.5%

●「15 授業以外に学習時間を確保している」61.8%

●「13 いじめ問題の取組方針が保護者と共有されている」65.7%

肯定的評価の下位3項目は項目15と19については生徒と同様に下位に位置し、昨年度と同様の傾向である。探究的な学びの取組や、学校いじめ基本方針や毎月の学校生活アンケートの周知といった情報発信を継続していきたい。

③教職員

○「3 部会の十分な開催」100%

○「14 図書館の施設や蔵書は整備されている」100%

○「12 健康・安全への配慮」98.1%

以上の上位3項目の他、「1教育目標」「5教科会の充実」「7授業改善」「10三年間を見通した進路指導」「11進路情報の整理・発信」「18スクールミッション・ポリシー」は90%台後半であり、全17項目中14項目が90%以上であり、取組の様子は良好であると考えている教員が多い。

●「9 生活指導に対する共通理解・協力的実践」82.7%

●「6 課題を追求する態度を育てる授業」84.1%

●「8 基本的生活習慣を身につける指導が十分」88.0%

90%台の高評価の項目が多い中、以上の3項目が下位に位置し、その他に「2評価結果を生かした改善」が88.2%であった。前年度と同様に生活習慣、生活指導に関するものが高評価の割合が低く、全職員で指導の目線を共有し一体となって進めていく難しさが浮き彫りになっている。